

Top Message	環境本部長インタビュー	特集 The Power of ICT	第7期富士通グループ環境行動計画	Chapter I 社会への貢献	Chapter II 自らの事業活動	環境マネジメント	データ編
-------------	-------------	---------------------	------------------	------------------	--------------------	----------	------

ICTの提供による温室効果ガス(GHG)排出量の削減 | 持続可能性に貢献する(サステナビリティ)ソリューションの提供 | エネルギー効率に優れたトップレベル製品の開発 | 製品の資源効率向上 | 先端グリーンICTの研究開発 | 社会との協働/良き企業市民としての活動

ICTの提供による温室効果ガス(GHG)排出量の削減

富士通グループのアプローチ

富士通グループは、ICTの提供を通じてエネルギー利用効率の改善や生産活動の効率化、人・物の移動量の削減といったイノベーションを社会の様々な領域で生み出し、GHG排出量の削減に貢献することを目指しています。ICTを多くのお客様に利用いただくことは、社会全体のGHGを削減すると共に、富士通グループの持続的な事業成長にもつながると考えています。

そこで富士通グループでは、お客様にお使いいただくICTがどれだけGHG削減に貢献しているかを定量的に「見える化」し、その貢献量の拡大を図っています。これまで、2009年度から2012年度までの累計で1,223万トンのCO₂排出量削減に貢献しました。2013年度からは目標の対象を海外にも拡大し、2015年度までの3年間にグローバルで累計2,600万トン以上貢献することを目指しています。

2013年度の実績サマリー

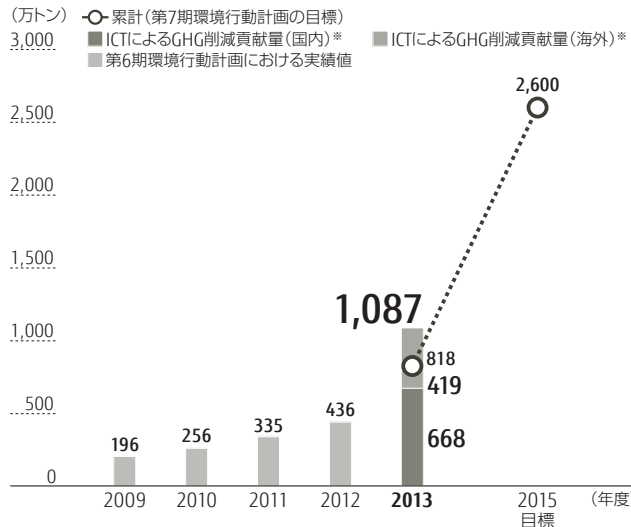
第7期環境行動計画の目標 (2015年度末まで)	お客様や社会の温室効果ガス排出量の削減に	2,600 (累計) 万トン以上貢献する。
2013年度目標	お客様や社会の温室効果ガス排出量の削減に	818 万トン以上貢献する。
2013年度実績		1,087 万トン 国内 668万トン 海外 419万トン

2013年度の実績・成果

「環境貢献ソリューション」の拡大を推進

ICTの提供によるGHG削減効果の定量的な「見える化」を推し進めるため、15%以上の削減効果が見込めるソリューションを「環境貢献ソリューション」として認定しています。2013年度は多くのお客様に提供しているソリューションを中心に認定を推進しました。また、環境貢献効果をお客様への提案の場でも活用し、ソリューションの環境価値をお伝えできるよう努めました。

ICTの提供による温室効果ガス(GHG)排出量の削減貢献量



※2013年度から範囲をグローバルに拡大。

新たに48件認定、1,087万トンのGHG削減に貢献

ワークスタイル変革を実現する「グローバルコミュニケーション基盤システム」や、お客様のICT運用をトータルにサポートする「SupportDesk(サポートデスク)サービス」など、国内で新たに48件の環境貢献ソリューションを認定し、累計で349件となりました。

その結果、グローバル全体での貢献量は1,087万トンとなり、目標を達成しました。

2014年度の目標・計画

重点ソリューションを定め認定を推進

「GHG削減貢献量を2013年度からの累計で1,699万トン」という年度目標の達成に向けて、多くのお客様に提供しているソリューションや、クラウドコンピューティングやモバイルなどこれからお客様の活用拡大が見込まれるソリューションに重点を置いて、環境貢献ソリューションの認定を推進します。

また、これらの評価結果を環境価値としてお客様にわかりやすく伝えていきます。

重点ソリューションの例(2013年度)

1. FUJITSU Managed Infrastructure Service SupportDesk
2. グローバルコミュニケーション基盤システム
3. FUJITSU Software Systemwalker
4. PLMシステム「PLEMIAシリーズ」
5. FUJITSU Software SIMPLIA
6. 特許管理クラウドサービス「ATMS PROPAS」

Top Message	環境本部長インタビュー	特集 The Power of ICT	第7期富士通グループ環境行動計画	Chapter I 社会への貢献	Chapter II 自らの事業活動	環境マネジメント	データ編
-------------	-------------	---------------------	------------------	-------------------------	--------------------	----------	------

ICTの提供による温室効果ガス(GHG)排出量の削減 | 持続可能性に貢献する(サステナビリティ)ソリューションの提供 | エネルギー効率に優れたトップレベル製品の開発 | 製品の資源効率向上 | 先端グリーンICTの研究開発 | 社会との協働/良き企業市民としての活動

2013年度の主な活動報告

生命保険会社の営業職員向けにタブレット端末を導入しCO₂排出量を43.1%削減

富士通は、生命保険の営業職員が利用する契約管理システムの中核となるタブレット端末ソリューションを2013年12月に提供しました。

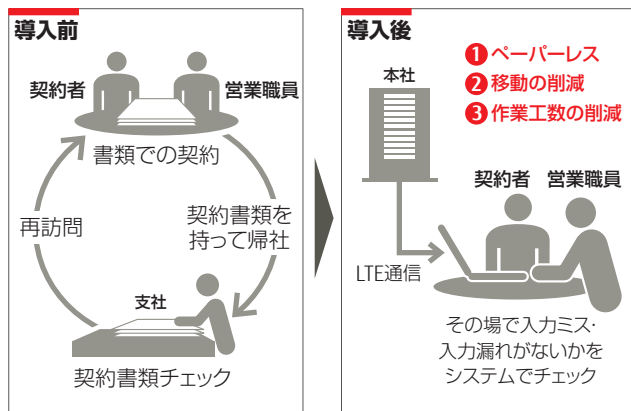
従来、保険営業職員の事務処理には多くの書類を使っており、その作業は営業所で行う必要がありました。このソリューションでは、セキュリティ機能を高めることで、タブレット端末で



タブレット活用シーン(イメージ)

商品説明から契約事務までをお客様先で行えるようにしました。それにより書類のペーパーレス化を実現し、外出先から営業所まで移動する必要もなくなります。

ソリューションのイメージ



お客様の環境貢献効果を評価したところ、GHG削減効果は43.1%(当社試算)となりました。数千万枚の大幅なペーパーレスにつながるほか、人の移動量(出張費・交通費の削減)とオフィススペース(照明や空調などの省エネ)の削減にも顕著な効果が表れました。

参考情報 GHG削減貢献量の算出方法について

富士通では、2004年に富士通研究所が「ICTソリューションの環境影響評価手法」を開発して以来、ICTの導入による環境負荷低減効果をCO₂排出量で定量的に評価しています。これまでに300件以上の事例を評価し、蓄積されたデータから、売上高当たりのCO₂削減効果(CO₂削減量原単位)を算出しています。

GHG削減貢献量の算出にあたっては、その原単位とソ

環境影響評価手法

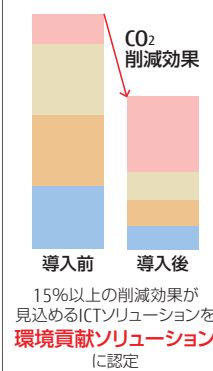
7環境影響要因をCO₂排出量に換算

物の消費	紙、CD、書籍の消費
人の移動	航空機、電車、バス、車による移動
物の移動	トラック、鉄道貨物による運搬
オフィススペース	作業工数、書類、機器スペースの占有
倉庫スペース	普通倉庫、冷蔵倉庫における保管
IT・NW機器	IT機器(サーバ、PC)による電力消費
NWデータ通信	インターネット・FAXのデータ通信

CO₂排出量を積算

環境負荷原単位データベース

導入前後で比較評価



リューションのカテゴリ別年間売上高より、年間削減量を算出しています。

第三者審査機関からのコメント

ICTの提供によるGHG排出削減貢献量の2013年度データに対して、第三者としてレビューを実施しました。

GHG排出削減貢献量の算出にあたっては、各ソリューションの環境アセスメント結果が基礎データとなっていました。それらはすべて内部の環境貢献ソリューション審査会にてチェックを受ける仕組みとなっており、データの信頼性確保の手段として有効に機能していることが伺えました。また、算出に用いられる書類が適切に整備されており、算出方法の明確化が図られていたことも評価できる部分です。

一方で、算出でポイントとなる“売上高当たりのGHG削減効果”(GHG削減量原単位)の求め方については、改良によって算出結果の精度をさらに向上させる余地があると思われました。例えばGHG削減原単位を求める際のカテゴリ分類を見直したり、より実態に合わせてベースラインシナリオを設定し直したりすることも有効な方法だと思われ、今後のさらなる検討が期待されます。



ビューローベリタスジャパン株式会社
システム認証事業本部
坂口 正敏 氏